

### 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0990900078		
法人名	株式会社 ファにリーホームなか		
事業所名	グループホーム 五行の杜		
所在地	栃木県真岡市大和田288		
自己評価作成日	平成28年12月22日	評価結果市町村受理日	平成29年4月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/09/">http://www.kaigokensaku.jp/09/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 栃木県社会福祉士会
所在地	宇都宮市若草1-10-6 とちぎ福祉プラザ3階 (とちぎソーシャルケアサービス共同事務所内)
訪問調査日	平成29年2月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

平成23年4月にオープンした施設で自然あふれる環境と木材を多用したぬくもりのある施設です。目の前の畑では野菜を栽培しており、利用者様ご自身が収穫でき季節を肌で感じることができます。理念として「いつでもその人がその人らしく楽しみを持って生活できるよう支援します」と掲げ利用者様一人ひとりの声に耳を傾け寄り添いながら職員と利用者様そしてそのご家族様・地域の方々と交流を深めながら利用者様の生活を支えていきたいと職員一同頑張っています。また、毎日の生活の中で歩ける方のみならず車椅子の方も少しでも太陽の光が浴びられるよう散歩を日課として取り入れています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・自然豊かな五行川のほとりに建つ、平屋のグループホームである。施設周辺は自然にあふれ、毎日の散歩コースは四季を感じられる環境である。  
 ・利用者は、事業所の周りを毎日散歩して気分転換をしている。時には車で神社や公園へ外出している。  
 ・職員は利用者本位を意識した支援をしており、利用者の思いや意向を多く取り入れて対応している。  
 ・グループホーム内は清掃が隅々まで行き届いており、清潔感がある。  
 ・浴室に家庭用のシャワー付きリフトを設置してあるので身体機能が低下しても浴槽に入ることができる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

自 己	外 部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開所時に事業所として基本方針、理念を定め掲げている。いつでもその人がその人らしく楽しみを持って生活できるよう全職員がで話し合い共有している。	共有スペースの中央に、施設理念が掲げられている。その人がその人らしく生活できるように、統一した支援を実行するために職員が共有をしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	小学校の運動会の招待参加・近隣の秋祭り参加・今年は地区の育成会の花火大会参加等を行ったり、地元の民謡・合唱のボランティアの来所を依頼又日々毎日の利用者との散歩時の何気ない近隣の方とのコミュニケーションを心がけている。	散歩をしていると、地域の方が声を掛けてくれたり、お茶を飲みながら家へ訪問することもある。地域の人と協力して地域のゴミ拾いや草むしりをしている。地域のボランティアが演奏をしに来てくれるなどの交流もある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現時点に置いて来所されるボランティアの方たちや利用なさっている家族へのアプローチは行なっているがまだまだ不十分ではある。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では毎回、サービスの状況・行事への参加等の報告し活動内容の理解を深めている。又災害マニュアルの作成に関し情報収集や意見をうかがって作成を行なった。	会議には、理事長、副理事長、地域包括支援センター職員、自治会長、施設長が参加し、運営推進会議を行っている。事業所の行事の報告や参加者の意見交換が行われている。	今後は利用者や職員が会議に参加したり、参加できなかった家族には議事録を提供する等、グループホームの方針を多くの方に開示すること期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市との交流をこまめに行い。グループホームのサービスのあり方や疑問に思った事を確認している。(居宅なのに居宅のサービスが受けられない現実等)包括支援センターとの利用状況等の現状の報告等も行なっている。	市役所や地域包括支援センターとも日々連携し、随時情報を共有している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束に関しては行なってはいないが、身体拘束に関し職員間の入れ替えもあり浸透しがたい点があり十分とはいえない点があるが、定期的な研修を今後行なっていく予定である。	日中、玄関を施錠することはなく、各個室にカギをかけることもない。利用者の移動も制限なく自由に行なっている。	初めて福祉の仕事に携わる職員もいるので、身体拘束のみならず、知識・技術も全職員が同じレベルで提供できるよう、定期的な施設内研修を充実させることを期待します。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	現時点に置いて虐待に関する職員間での研修は行っていないが今後研修の必要性があると認識している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者として理解はしているつもりでは有るが職員間での研修がなされていない又成年後見人等に関し具体的な相談事例も現在は無いため活用は行っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書や契約書の内容では判り難い部分等や当グループホームでの必要事項を別紙で作成し入居前に一つ一つ理解を得ながらチェックしながら確認している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関口にご意見箱を設置し定期的に確認している。又ご家族の面会時にもなるべく声掛けを行い日々の状況やご家族のご意向を伺っている。家族会は有るものの開催が遅れている点は今後の課題である。	家族の面会時に話を聞くようにしている。事業所の敬老会やクリスマス会に家族を招待して、意見や要望を聞いている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回のミーティング時の確認や日々の会話の中で確認を行ったり問いかけを行ったりしている。	管理者は毎朝の申し送りで、職員からの意見を聞くようにしている。また、普段から管理者は、職員に個別に意見を聞くよう心掛けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は時折現場に足お運び管理者や職員hrの問い掛け等を行なってい吸い上げる努力をしている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員育成に関し研修への参加の声掛けははするものの現状の状況(人手不足)のためなかなか外部研修への参加が行なえていないことが現状。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	グループホーム連絡会や地域医師会(いちご一会等)への研修参加が少しずつ参加できるようになったが、まだまだ不十分である。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	常時利用者の訴えを何気ない日常の中から聞き出しているつもりであるが、不十分な点がたつたある。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時等に声掛けを行い。今後の利用者の方向性やどのようなサービスがあるのかは提供している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	聞き取りの中必要なサービス等に関しプランの中に反映させている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	基本的な理念ではそのような目標を立てているが職員の入れ替えが多々あるため追いついていない状態。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居して年数がたつにつれご家族との関係が少しずつ隙間ができてきたように思う。今後はご家族へのなんらかの働きかけを行なう必要あり。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や親友が面会に来た時にはくつろげる面会場所空間を提供し又、きたくなるような雰囲気作りにも努め帰りに玄関先までお見送りを心がけている。	面会に訪れた友人などには、利用者とはゆっくり話をしてもらえよう、面会場所を提供している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの性格・相性を考慮し出来るだけ相性や会話が行なえるよう座席の位置や声掛け誘導時に気を配っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了する以前より必要なサービスの情報をご家族へ提供し、契約が終了となっても出来るだけご家族・利用者が安心して他のサービスが受けられるよう情報提供を都度提供している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時に生活暦や生活日課を確認し本人の意向の把握に努めている。	利用者と落ち着いて1対1で話す機会を作り、利用者の思いや意向を聞き出している。利用者の生活歴等を参考にして、その人らしい生活を支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	上記と同じように生活暦や日課を確認し24時間表と照らし合わせている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	家ではどんなことが好きでどう過ごしてきたか確認しそれに近い形になるよう支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	現状に即したプラン作りの為に申し送り時やミーティングで職員同士の情報交換を行ったり気づいた事を記録したりしてプランに反映している。家族の意向も確認している。	介護計画は、利用者の意向や思いを主にしているが、家族の意向も反映して作成している。介護計画の話し合いをするときは、利用者本人も同席して行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアの実践の記録の他に排泄・食事摂取量等記録し情報の共有化を図り計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	職員間で情報を共有化し、本人の意向や家族の意向、本人の状態に合わせてサービスの調整をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近くの神社や川・公園等へ外出したりボランティアの受け入れをして楽しみ作りを支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人のかかりつけ医をそのまま継続していただき、受診の際には前もって現在の情報を伝える等適切な医療が受けられるよう支援している。	かかりつけ医の受診は家族が行っている。そのため、家族には、看護師が作成した情報提供書を持参してもらい、日ごろの様子が医師に伝わるようにしている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	スタッフ内で状況報告しあい、より良い看護が受けられるよう、また受診時や訪問診療の際情報を提供し相談する等健康管理や医療支援を行っている。(職員に準看護師がいるためその職員が窓口となり相談している。)		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。また、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した場合は病院・家族との連携を密に行い、状況を確認に行く等病院と連携をはかりながら退院に向けて支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時や面会時に今後の方向性も含め話し合い、当施設でできることを説明している。終末期は病院で、と考えている家族が多い。	共同生活が難しくなった利用者には、家族と今後の方向性についての話し合いを持ち、その方にあった生活場所が確保できるよう支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアル等を作成し、マニュアルに沿って動くような体制をとっている。日々の中で実践力をつけるための研修も実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防署と連携をはかり火災を想定した避難訓練を実施している。地域の避難訓練にも参加し災害時の避難場所としても地域の方に場所を提供している。又その他災害の為にマニュアルを作成している。	火災時のマニュアルだけではなく、水害時、地震発生時とそれぞれに応じたマニュアルを作成している。備蓄品も消費期限や備蓄品の内容がすぐわかるよう一覧表にまとめたものを用意している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人の尊厳を守ることを常とし、誇りを傷つけない羞恥心に配慮した声掛けをし職員間でも注意し合うよう努力している。入室時のノックやドアの開閉には本人の確認をとる等配慮している。	利用者の居室に入る際は、ノックをして声を掛けて入室している。利用者が失禁したときは、優しく声を掛け本人のペースで対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	共に過ごす時間を大切にし職員との会話の中にあられる本人の思い等大切にしている。何をすることも本人の意思確認をして自己決定していただいている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れは大体決まってはいるが利用者がどうしたいかは必ず確認し希望があればそちらを優先している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その日の着る物を選んでいただいたり、化粧したい方にはどのようにしたいか等確認し支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事に関して準備から後片付けまで利用者の方ができるところは一緒に手伝っていただいている。料理や味付けに関して会話しながらの雰囲気作りを大切にしている。	利用者それぞれの食べる量を把握して、食べ残しがないように提供している。また、食事の時間にはゆったりとした音楽を流し、個々のペースで食事をとっている。また、利用者がキッチンに入って調理を手伝うこともある。	時には外食して、自分で選択して食べる機会をつくることを期待します。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量や食事形態、使いやすい食器等に配慮して食事の提供を行っている。また食事や水分摂取量についても記録し状態が把握できるようにしている。制限のある人には表を作成し周知している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝昼夕の三食とも食後の歯磨きは一人ひとり行っている。必要によって介助の程度も違い利用者に合わせて実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりの排泄表から排泄パターンを把握し、尿意便意のない方もトイレ誘導をすることで、トイレで排泄できるよう支援している。	利用者がそれぞれトイレに誘う等、個別のサインを把握することで排泄支援を行っている。利用者の排泄状態を把握して対応したため、事業所全体のパットやオムツの使用枚数が減少している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘に効果的と言われている繊維質の多い食品をとったり腹部マッサージの実施、必要に応じて緩下剤使用の方もいる。又腸の活性のため毎日散歩を実施している。排泄チェック表にて排泄周期の把握を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	本人の意向を大切に無理強いせず、入浴時間を変更したり声掛けのタイミングを計る等工夫することで入浴を楽しんでもらえるようにしている。	2日に1回の入浴を基本としているが、利用者の意向や体調も随時考慮しながら入浴を行っている。浴槽は座ったまま入浴できる設備もあり、身体機能が低下しても入浴できる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その時々状況に応じてベットやソファで休んでもらったり、表情や状況から判断し声掛け対応している。前日の過ごし方も参考に考慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各個人の薬の説明書に沿って服薬管理をし受診時には状況提供書を作成し医師の指示を受ける等対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事作りやカラオケ、農作業等の生活歴や職歴、趣味等を生かし、喜びや張りのある生活が出来るよう支援を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や買い物等希望が聞かれた時は出かけられるよう対応、必要に応じて家族にも協力を依頼する等連携をはかり支援している。	毎日、近所を散歩して気分転換を図っている。公園など全員での外出の際は、同法人の別の事業所から車を借りて外出支援をしている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	それぞれの職員が、自分の担当している利用者の預り金を管理しており、買い物等にも一緒に行ける体制をとっている。外食には自分でお金の出し入れをしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があればいつでも電話が使用でき、投函もできるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	建物自体が木を多く使っており採光にも配慮した設計となっており、直接ベランダから外に出入りができ、自然が感じられる環境である。生活空間としては清潔に配慮し不快な臭いがしないよう換気に注意し温度調整にも配慮している。	毎日、朝・夕に職員がモップがけをしているため、床に艶がありとても綺麗である。居室だけではなくリビングの温度と湿度もチェックして、感染症にならないように注意している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	すべて個室対応で、好きな時に独りになれる環境であり居室への出入りには制限はない。食堂の席やソファ等自分で好きな所を使用していたい。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはテレビや使い慣れたもの、好きなものを持ち込んで頂き、本人が落ち着ける場所となるようにしている。	居室には利用者が長年使用していた物や気に入っている物を持参し、居心地の良い空間にしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホールには必ず職員を配置しいつでも聞いたり相談できるように配慮。居室の表札も本人家族共同で作成、わかりやすくしている。ホールには文具や遊具等自由に使用できる環境にしてある。		